令和４年度　実験・実習費に関する調査の結果について

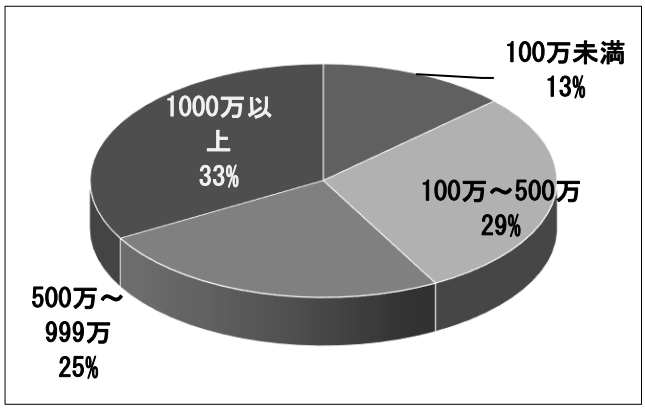
全国高等学校農場協会振興局

１　アンケート協力校について

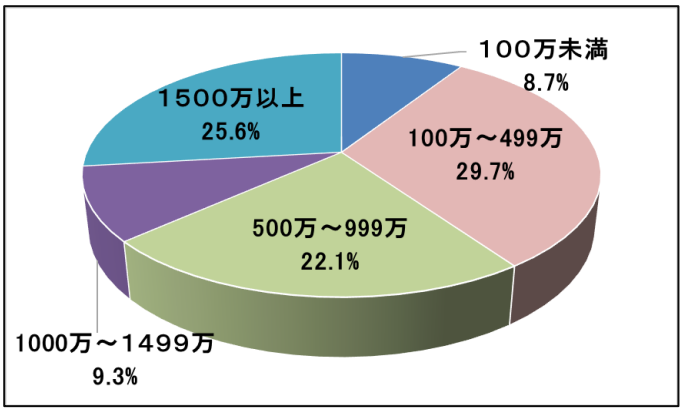
196 校から回答

２　収入を伴う実験・実習費の調査

（１）令和３年度農場売上金額

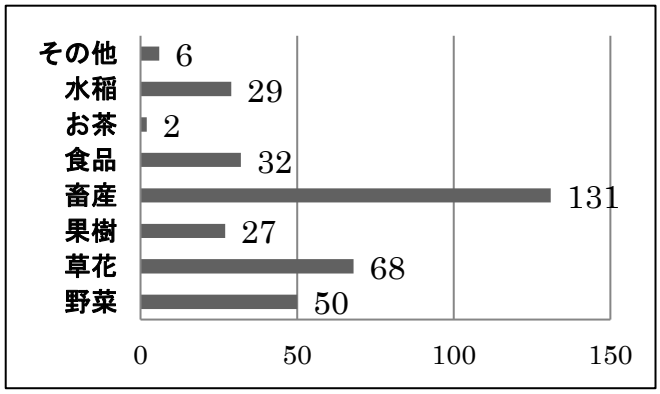


昨年度

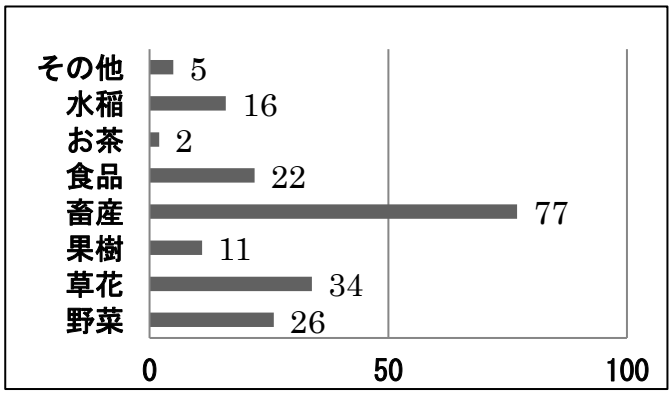


本年度

（２）最も収入の多い分野

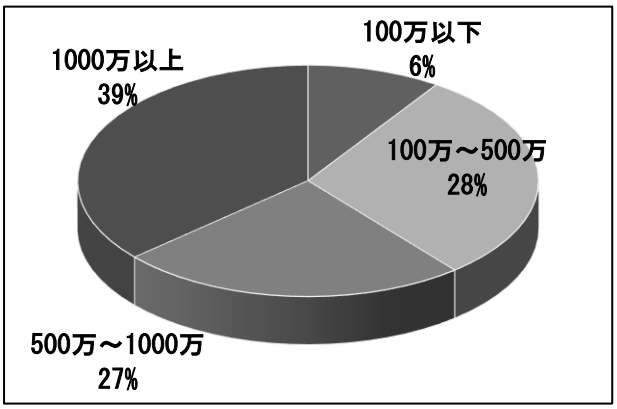


昨年度

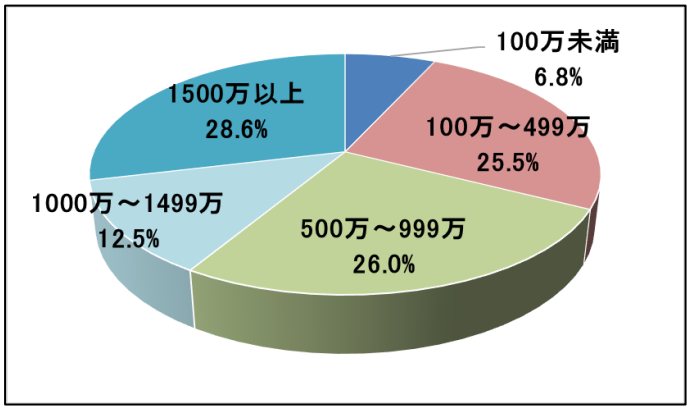


本年度

（３）令和３年度農場支出金額

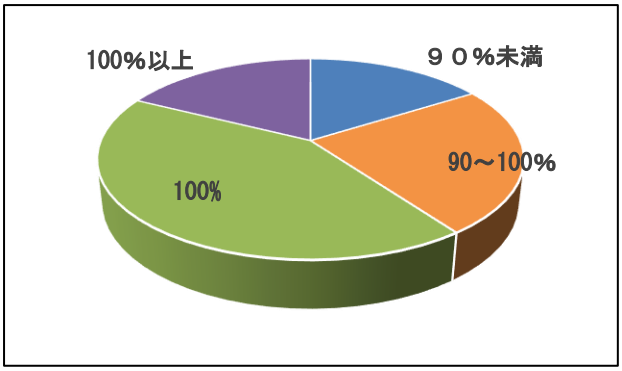


昨年度

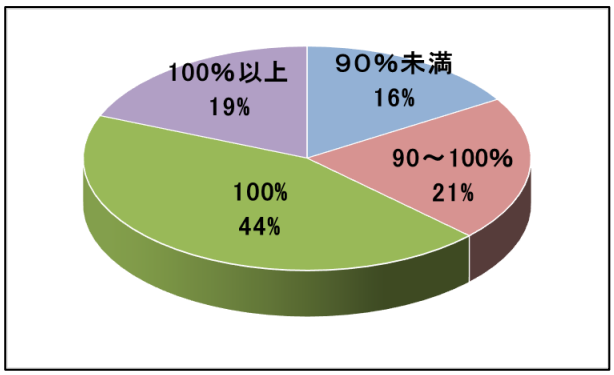


本年度

（４）支出金額は売上金額の何％ぐらいを目安にしているか。



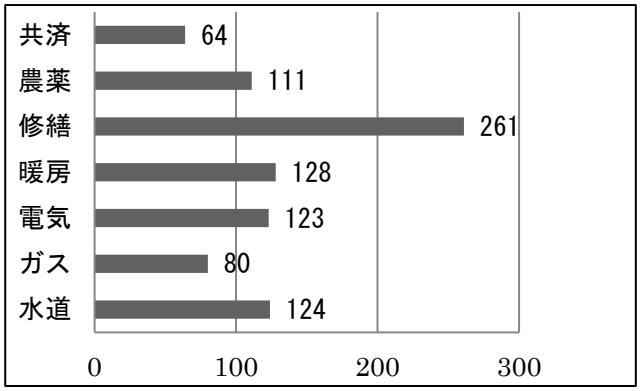
昨年度



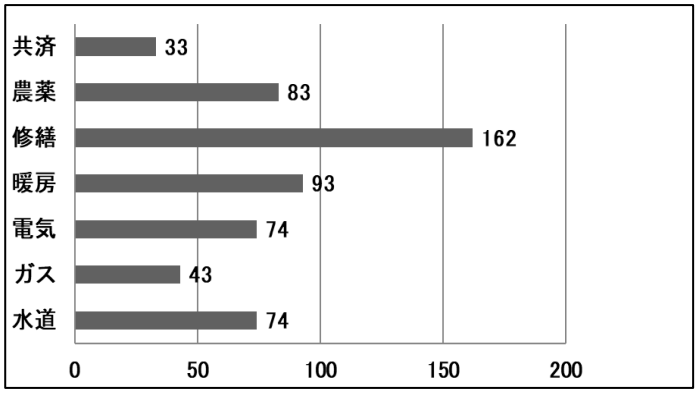
本年度

（５）農場共通経費について

昨年度同様、「修繕費」が最も多かった。次に、「暖房代」、「電気代」、「水道代」、「農薬代」、「ガス代」の順で多かった。

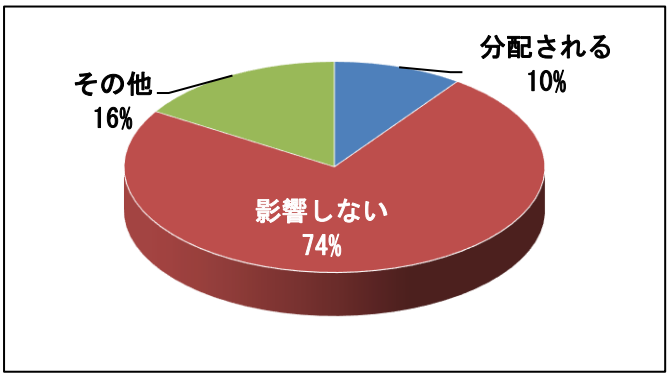


昨年度

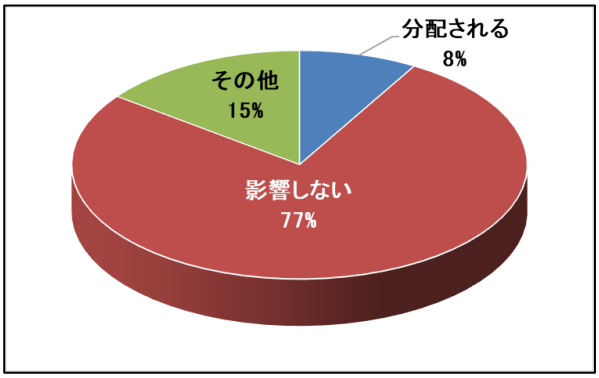


本年度

（６）農場売上金額が予定額を上回った場合、来年度予算に増額して分配されますか。



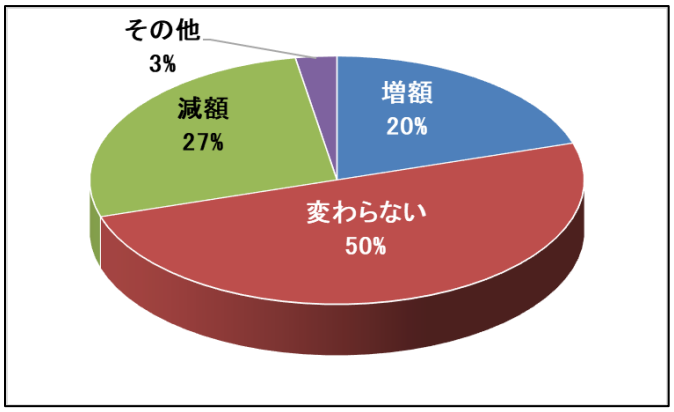
昨年度



本年度

その他　・翌年や２年後に分配される。　・補正予算を組めば分配ある。
・上回った金額の一部や 1/2 が分配される。　等

（７）前年度と比較して、収入を伴う実験・実習費（支出額）の増減を教えてください。

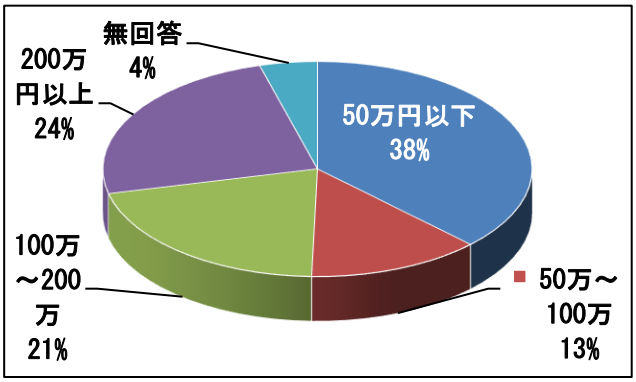


本年度

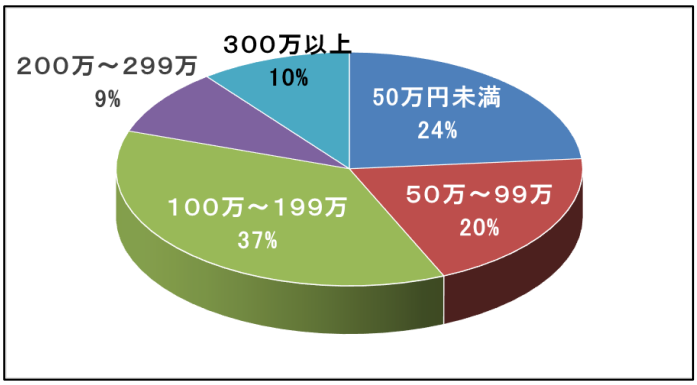
３　収入を伴わない実験・実習費の調査

（１）農業単独校

ア　令和３年度農業の実験・実習費

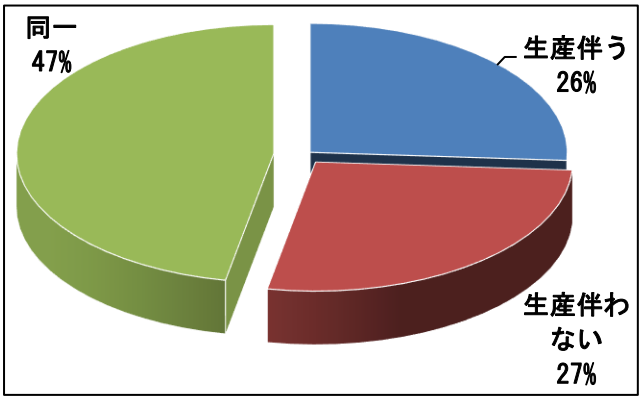


昨年度

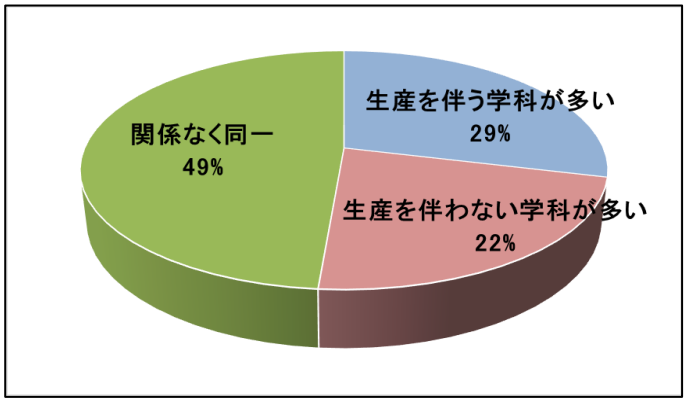


本年度

イ　農業単独校における学科の違いによる比較（一人当たりの実験・実習費）

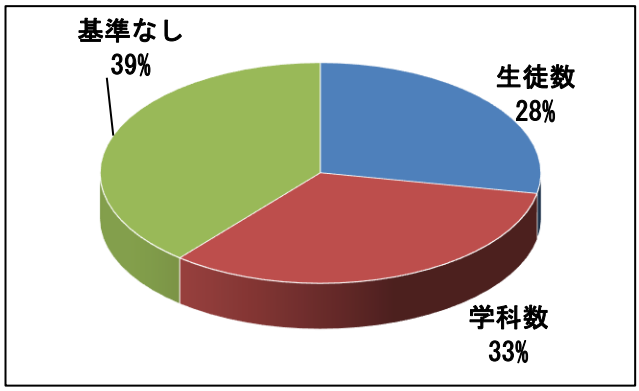


昨年度

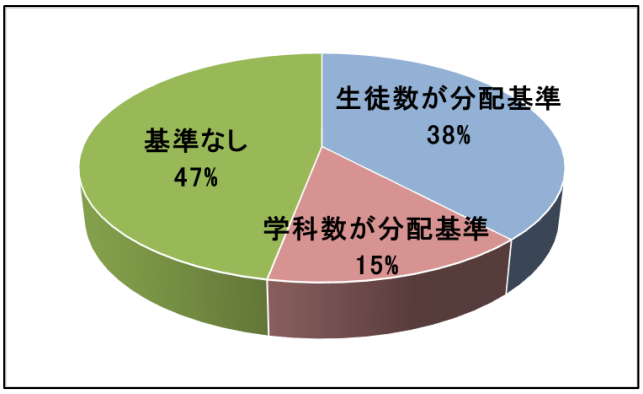


本年度

ウ　分配基準について

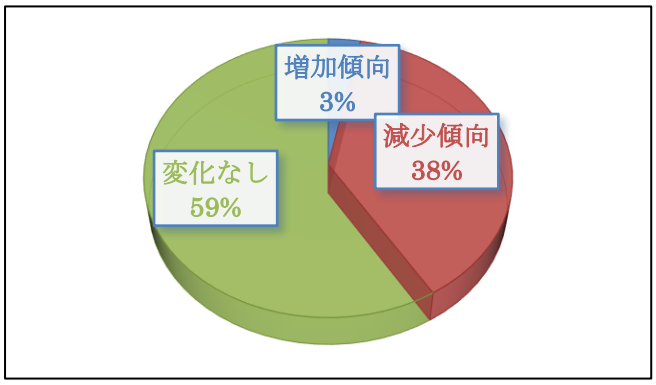


昨年度

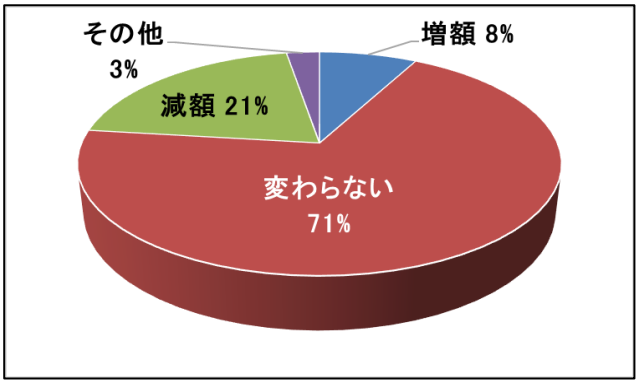


本年度

エ　実験・実習費の変化



昨年度



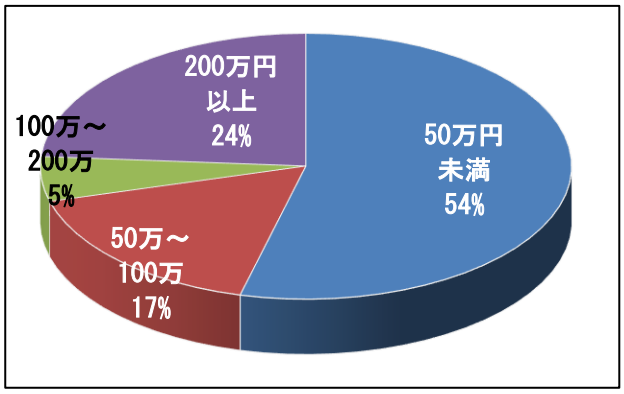
本年度

【増加傾向の理由】　・生徒数減少による一人あたりの分配額の増加
・PC 購入を求めているため

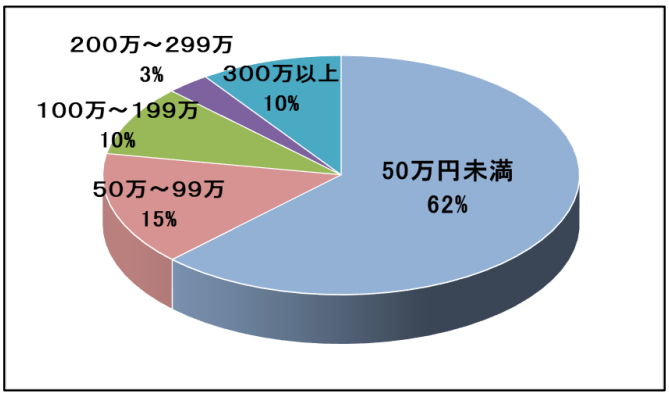
【減少傾向の理由】　・自治体の緊縮財政のため　・生徒数の減少　・学校運営費の削減の煽り
・一般予算の光熱費増のため　等

（２）併設校および総合学科校における学科の比較

ア　令和３年度農業の実験・実習費

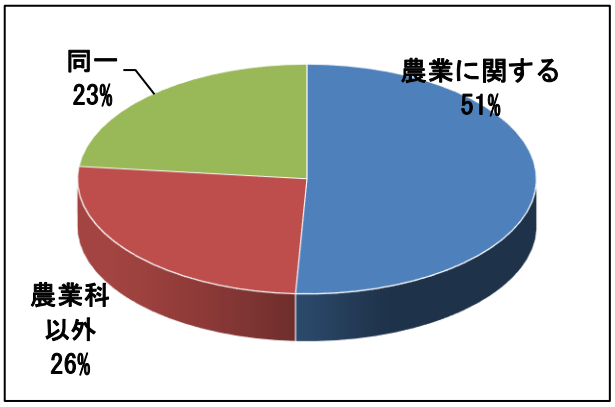


昨年度

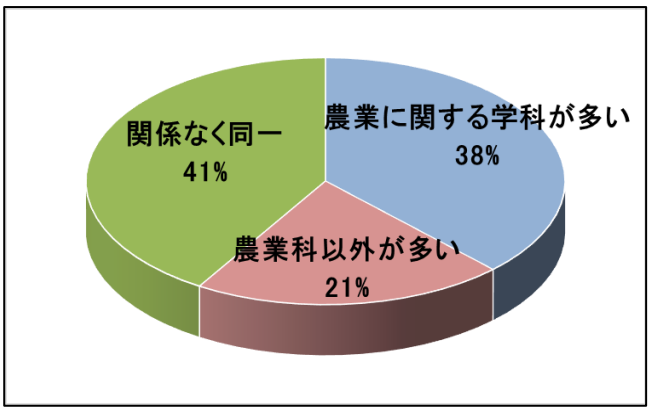


本年度

イ　併設校及び総合学科における学科の違いによる比較（一人当たりの実験・実習費）

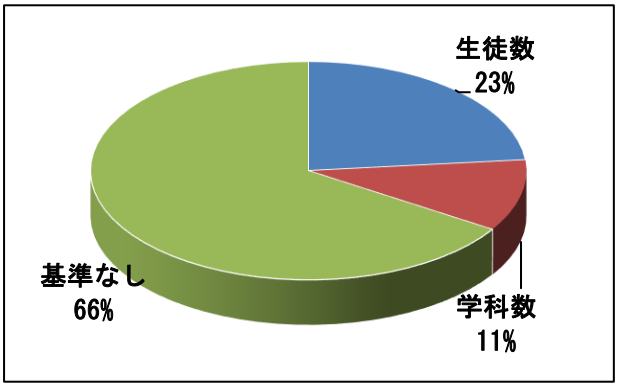


昨年度

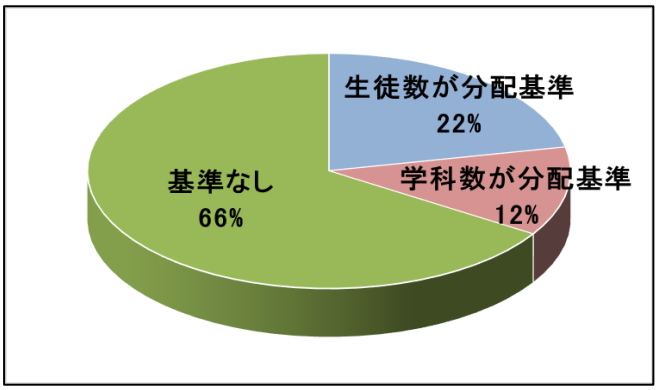


本年度

ウ　併設校及び総合学科校の分配基準

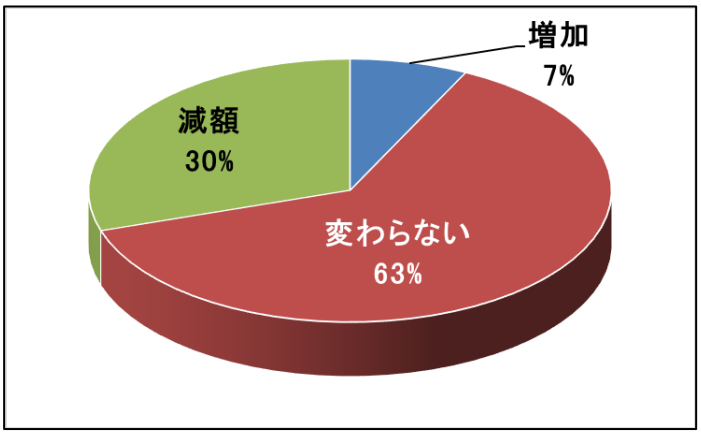


昨年度



本年度

エ　実験・実習費の変化



本年度

４　実験・実習費への意見

・施設や機械、器具が老朽化しているため、修繕費が非常にかかる。
・収入予算で支出予算はまかなえない。不足分は学校運営費から出してもらっている。
・受益者負担の考えにより、科目ごと教員が現金を集める方法は、教員が現金をできるだけ直接扱わないという考え方と逆行している。教員の仕事の負担が多くなっている。
・毎年、１０又は１５％ずつ減額されています。
・年々減り続ける予算額に対して、学科毎の公平な分配基準について検討を始めたところです。

・農場予算の１００％返金を求められるが、各種価格の上昇により返済は困難である。香川県の制度変更を求めたい。
・収入を伴わない実験・実習費を増額してほしい。
・原材料や資材費など高騰しているが、実験・実習費の予算配分は例年通りとなっている。今後が心配。
・原料や資材価格が高騰しているが、予算額はあまり変わっておらず、やりくりに苦労している。
・実験実習費は、毎年減額傾向にあると感じる。収入を伴わない授業の充実のため、増額していただきたい。
・県から実験・実習費が下りてきても金額を教えていただけない。校内で予算のヒヤリングがあり、その後予算が決定する。
・学校全体の予算配当を増やすことで農業科の予算を増額してほしい。
・年々減額されている。これ以上の減額になると授業に影響する。
・実験実習費は収入に関係無いとした方が良いと思う。
・不足しているので生徒から徴収している。
・農場での収入額に関わらず、農場予算が年々減少し、毎年作目の工夫や節約を強いられる。同じ規模での農場運営を変えざるを得ない状況である。
・年々減額されているが、以前からの規模を維持するためには過去の水準へ戻してほしい。
・老朽化の程度によって増額して欲しい。
・収入が予算どおりにならなくても学校に負担がかからないようにしてもらいたい。資材費等が高騰しているため収入を伴わない予算を確保してもらいたい。
・資材や原材料費の値上がりが激しく、昨年とほぼ変わらない予算でも購入数が減少している。
・課題研究充実のため、収入を伴わない実験実習費の増額を希望する。
・老朽化した施設・機械の更新がまだ不十分なので更新できるようご尽力をいただきたい。
・選択科目の費用がないので、生徒徴収となっている。
・生産を伴う実験実習の費用を、実験に使用したら失敗してしまい、商品にならず県に返す収益に支障をきたしてしまった。実験がやりにくい。
・新たな栽培実験を行うことで、生徒のプロジェクトをより発展させることができる。継続してほしい。
・現在の栽培方法がはたして持続可能なものなのかを検証するためにも時間と経費は必要である。農業という分野が国策として考えられているのかわからないが、１％の可能性であっても、国や県は実験、実習に投資すべきではないか。
・他学科と同じ実験実習費では、農業分野は難しい。
・コロナ禍で、販売日が確保できず、売上計上できなかった。
・備品購入など高額備品は予算が異なり、備品扱いとなる金額のものは県が順位付けをしてしまうことで、なかなか購入することが出来ない。また、購入先も少なく、現場職員が購入先を開拓することは困難である。
・収入（売上）額に応じて予算が配当されるため、収入額の少ない小規模校や収入を伴わない農業土木、造園、環境系学科は実験・実習費などにおいて格差が生じるのは問題と考える。
・「収入を伴う」実験実習費と、「収入を伴わない」実験実習費に、明確に分かれているわけではないので、回答が難しかったです。
・現状では実験・実習を行う時間もままならない状態であり、純粋に実験・実習を行える時間の創出と、潤沢な予算配分が望まれる。